

諏訪湖流域関連岡谷市公共下水道事業（変更）計画書

流域関連公共下水道管理者 岡 谷 市

工事着手の年月日 昭和 49 年 12 月 26 日

平成 30 年 3 月 31 日

工事完成の予定年月日 平成 37 年 3 月 31 日

第1表の1

変更前：赤字
 変更後：黒字

予定処理区域及び流域下水道との接続箇所調書（污水）					
予定処理区域の面積	1,636ヘクタール		予定処理区域内の地名	長野県岡谷市 「区域は下水道計画一般図表示のとおり」	
処理分区の名称	面積(ヘクタール)	流域下水道との接続箇所の番号	流域下水道との接続箇所の位置	接続する流域下水道の幹線名	摘要
岡谷第一・一処理分区	339	湖周1	岡谷市御倉町	湖周幹線	計画下水量 3,600 2,700 m ³ /日 水質 BOD 130 mg/l BOD 205 mg/l S S 100 mg/l S S 159 mg/l
岡谷第一・二処理分区	65	湖周1	岡谷市御倉町	湖周幹線	計画下水量 1,200 1,000 m ³ /日 水質 BOD 130 mg/l BOD 205 mg/l S S 110 mg/l S S 161 mg/l
岡谷第二処理分区	141	湖周2	岡谷市天竜町三丁目	湖周幹線	計画下水量 2,900 2,100 m ³ /日 水質 BOD 170 mg/l BOD 210 mg/l S S 150 mg/l S S 174 mg/l
岡谷第三処理分区	578	湖周3	岡谷市南宮三丁目	湖周幹線	計画下水量 8,500 7,900 m ³ /日 水質 BOD 150 mg/l BOD 195 mg/l S S 120 mg/l S S 165 mg/l
岡谷第四処理分区	399	湖周4	岡谷市長地権現町三丁目	湖周幹線	計画下水量 6,100 6,100 m ³ /日 水質 BOD 140 mg/l BOD 209 mg/l S S 120 mg/l S S 175 mg/l
岡谷第五処理分区	114	西山1	岡谷市湊五丁目	西山幹線	計画下水量 1,100 800 m ³ /日 水質 BOD 130 mg/l BOD 203 mg/l S S 100 mg/l S S 152 mg/l

第1表の2

予 定 排 水 区 域 調 書 (雨水)			
予定排水区域 の面積	967 ヘクタール	予定排水区域 の地名	長野県岡谷市 「区域は下水道計画一般図表示のとおり」
排水区の名 称	面 積 (ヘクタール)	摘 要	
天竜川第八排水区	41		
天竜川第九排水区	6		
天竜川第十排水区	44		
諏訪湖第一排水区	41		
諏訪湖第二排水区	74		
諏訪湖第三排水区	252		
諏訪湖第四排水区	45		
諏訪湖第五排水区	13		
諏訪湖第六排水区	76		
諏訪湖第七排水区	80		
諏訪湖第八排水区	17		
諏訪湖第九排水区	257		
横河川第三排水区	21		

第2表

吐 口 調 書						
排水区の名称	主要な吐口の種類	主要な吐口の番号又は名称	主要な吐口の位置	計画放流量 (m^3/s)	放流先の名 称	摘 要
天竜川第八排水区	分流式 雨水管渠	天八－1	岡谷市御倉町	5.653	天竜川	
天竜川第十排水区	分流式 雨水管渠	天十－1	岡谷市天竜町二丁目	6.314	〃	
諏訪湖第三排水区	分流式 雨水管渠	諏三－1	岡谷市神明町二丁目	3.425	塚間川	
〃	分流式 雨水管渠	諏三－2	岡谷市郷田町一丁目	3.065	〃	
〃	分流式 雨水管渠	諏三－3	岡谷市幸町	2.682	〃	
諏訪湖第四排水区	分流式 雨水管渠	諏四－1	岡谷市湖畔三丁目	3.563	諏訪湖	
諏訪湖第六排水区	分流式 雨水管渠	諏六－1	岡谷市湖畔四丁目	6.712	諏訪湖	
諏訪湖第七排水区	分流式 雨水管渠	諏七－1	岡谷市湖畔四丁目	6.152	諏訪湖	
諏訪湖第九排水区	分流式 雨水管渠	諏九－1	岡谷市長地権現町二丁目	10.023	十四瀬川	
〃	分流式 雨水管渠	諏九－2	岡谷市長地権現町四丁目	2.289	〃	
〃	分流式 雨水管渠	諏九－3	岡谷市長地権現町四丁目	11.741	〃	

第3表の1

変更前：赤字
 変更後：黒字

管 渠 調 査 (汚 水)				
処理分区の 名称	主要な管渠の 内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	点検箇所 の数	摘 要
岡谷第一・一 処理分区	○100～○800	6,790	10	— 方法：マンホール内からの管内目視あ るいは管口テレビカメラを用いる 頻度：5年に1回以上
岡谷第一・二 処理分区	○250～○450	630	—	—
岡谷第二 処理分区	○400～○800	1,940	—	—
岡谷第三 処理分区	○250～○1000	12,490	—	—
岡谷第四 処理分区	○250～○1000	8,820	—	—
岡谷第五 処理分区	○200～○400	3,550	—	—
合 計		34,220	10	—

第3表の2

管 渠 調 書 (雨 水)			
排水区の名称	主要な管渠の内のり寸法 (単位：ミリメートル)	延 長 (単位：メートル)	摘 要
天竜川第八排水区	○1650	160	
	□2200×1400	10	
	計	170	
天竜川第十排水区	□1500×2000	390	
諏訪湖第三排水区	○1200～○1350	670	
諏訪湖第四排水区	□1200×1200～□1600×1600	1,560	
諏訪湖第六排水区	□1400×1400～□1800×1800	2,160	
諏訪湖第七排水区	□1400×1400～□1800×1800	1,660	
諏訪湖第九排水区	○1350～○2400	2,000	
	□1200×1200～□2400×2400	3,230	
	計	5,230	
合 計		11,840	

6. 会計年度毎の工事費の予定額及びその予定財源

変更前：赤字
変更後：黒字

(単位：千円)

年 度	イ 経費の部								
	建設改良費					起債元利 償還費	維持 管理費	その他	合 計
	管 渠	ポンプ場	処理場	計	うち 用地費				
過年度計	32,674,307	—	5,951,384	38,625,691	—	48,770,722	14,956,813	—	102,353,226
	32,877,085	—	7,212,964	40,090,049	—	48,207,485	15,343,126	—	103,640,660
平成30年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	325,669	—	56,600	325,669	—	834,868	522,651	—	1,683,188
平成31年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	327,200	—	62,200	327,200	—	734,773	504,333	—	1,566,306
平成32年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	336,100	—	68,400	336,100	—	733,983	501,549	—	1,571,632
平成33年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	342,200	—	75,200	342,200	—	738,900	498,149	—	1,579,249
平成34年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	349,700	—	82,700	349,700	—	742,948	494,785	—	1,587,433
平成35年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	437,900	—	90,900	437,900	—	707,326	491,457	—	1,636,683
平成36年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	441,900	—	99,900	441,900	—	670,613	488,165	—	1,600,678
小 計	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2,560,669	—	535,900	2,560,669	—	5,163,411	3,501,089	—	11,225,169
合 計	32,674,307	0	5,951,384	38,625,691	0	48,770,722	14,956,813	0	102,353,226
	35,437,754	0	7,748,864	42,650,718	0	53,370,896	18,844,215	0	114,865,829

1. 流域関連公共下水道は、「建設改良費」の欄に建設費負担金、「維持管理費」の欄に管理運営費負担金を含む。
2. 「起債元利償還費」の欄には、企業債取扱諸費を含む。

変更前：赤字
変更後：黒字

(単位：千円)

年 度	ロ 財源の部										
	建設改良費						維持管理費及び起債元利償還費				合 計
	国 費	起 債	他会計 繰入金	受益者 負担金	その他	計	下水道 使用料	他会計 繰入金	その他	計	
過年度計	6,935,200 7,036,251	23,433,220 24,979,142	6,586,897 6,381,250	1,670,374 1,693,406	— —	38,625,691 40,090,049	30,561,911 30,671,491	32,223,166 31,970,692	942,458 908,428	63,727,535 63,550,611	102,353,226 103,640,660
平成30年度	— 89,300	— 231,830	— 0	— 4,539	— —	— 325,669	— 956,155	— 399,422	— 1,942	— 1,357,519	— 1,683,188
平成31年度	— 84,000	— 134,600	— 104,061	— 4,539	— —	— 327,200	— 947,875	— 290,431	— 800	— 1,239,106	— 1,566,306
平成32年度	— 95,000	— 155,100	— 81,461	— 4,539	— —	— 336,100	— 939,666	— 295,066	— 800	— 1,235,532	— 1,571,632
平成33年度	— 95,000	— 161,600	— 81,061	— 4,539	— —	— 342,200	— 929,640	— 306,609	— 800	— 1,237,049	— 1,579,249
平成34年度	— 95,000	— 168,700	— 81,461	— 4,539	— —	— 349,700	— 919,721	— 317,212	— 800	— 1,237,733	— 1,587,433
平成35年度	— 135,000	— 212,500	— 85,861	— 4,539	— —	— 437,900	— 909,907	— 288,076	— 800	— 1,198,783	— 1,636,683
平成36年度	— 135,000	— 216,400	— 85,961	— 4,539	— —	— 441,900	— 900,199	— 257,779	— 800	— 1,158,778	— 1,600,678
小 計	— 728,300	— 1,280,730	— 519,866	— 31,773	— —	— 2,560,669	— 6,503,163	— 2,154,595	— 6,742	— 8,664,500	— 11,225,169
合 計	6,935,200 7,764,551	23,433,220 26,259,872	6,586,897 6,901,116	1,670,374 1,725,179	0 0	38,625,691 42,650,718	30,561,911 37,174,654	32,223,166 34,125,287	942,458 915,170	63,727,535 72,215,111	102,353,226 114,865,829
下水道使用料 ※関連事項	接続率：97.6 %（平成29年度：初年度） → 98 %（平成36年度：最終年度） <講じる対策> ・戸別訪問による接続奨励を実施。 有収率：75.2 %（平成27年度：初年度） → 80.0 %（平成36年度：最終年度） <講じる対策> ・接続済み施設と排水設備計画確認申請書を照合し、届出忘れ等による既接続者の有収水量を確保。										

1. 「建設改良費」の「その他」の欄には、工事費負担金、都道府県補助金等を記載する。なお、流域下水道は建設費負担金を含んで記載する。
2. 「維持管理費及び起債元利償還費」の「その他」の欄には、都道府県補助金、積立金取り崩し額等を記載する。なお、流域下水道は管理運営費負担金を含んで記載する。
3. 下水道使用料については、最近の有収水量の動向、国立社会保障・人口問題研究所等による人口・世帯数の見通し、企業立地の見通し等を踏まえた上で算定すること。
4. 「下水道使用料※関連事項」の講じる対策の記載にあたっては、「下水道経営改善ガイドライン（平成26年6月、国土交通省・公社日本下水道協会）」等も必要に応じ参照すること。
5. 「下水道使用料※関連事項」の「その他の講じる対策」の欄には、例えば、下水道使用料の見直し検討や徴収対策の取組について記載する。

7. その他の書類

7-1. 施設の設置に関する方針

(様式1) 施設の設置に関する方針

主な施策	整備水準			事業の重点化・効率化の方針	中期目標を達成するための主要な事業	備考
	指標等	現在 (平成29年度末)	中期目標 (平成36年度末)			
汚水処理	下水道処理人口普及率	99.5%	99.8%	100.0%	市営住宅整備計画に合わせた整備や補助事業を活用しながら整備を進める。	汚水管渠整備事業
浸水対策	整備目標	0.3%	0.7%	0.7%	100mm/h安心プランによる浸水被害の軽減を進める。	雨水渠整備事業
汚泥の再生利用	燃料又は肥料として有効利用された割合	97.3%	97.3%	100%	事業を継続。人工骨材として活用	事業の継続

7-2. 施設の機能の維持に関する方針

(様式2) 施設の機能の維持に関する方針

a) 主要な施設に係る主な措置

i) 劣化・損傷を把握するための点検・調査の計画

主要な施設	点検・調査の頻度
管渠施設	腐食環境下及び重要度の高い施設は概ね5年に1度、その他の施設は概ね15年に1度の点検を実施。 点検の結果、異状の可能性のある箇所についてはTVカメラ調査を実施。

ii) 診断結果を踏まえた修繕・改築の判断基準

主要な施設	修繕・改築の判断基準
管渠施設	緊急度 I を修繕・改築の対象とする。

iii) 改築事業の概要（平成30年度～平成36年度）

主要な施設	改築事業の概要
管渠施設	延長：約0.5km/年

b) 施設の長期的な改築の需要見通し

改築の需要見通し (年あたりの概ねの事業規模の資産)	試算の対象時期	試算の前提条件
管渠施設	年あたり概ね0.5億円	概ね150年後
		平準化(財政状況を勘案して緊急度が高い管渠から改築)